

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400521		
法人名	社会福祉法人豊智福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー		
所在地	長野県長野市豊野町豊野2 2 9 8 - 2 (電 話) 026-257-5183		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】 (平成21年 2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤 1人,	常勤換算14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	33,600 円	その他の経費(月額)	高熱水費16,200円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成21年 2月20日現在 )

利用者人数	18 名	男性	0	女性	18 名
要介護 1	3	要介護 2	3		
要介護 3	9	要介護 4	2		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・朝日病院 ・上松病院 ・中屋診療所 ・豊野病院 ・斉藤歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR信越線豊野駅より車で5分ぐらいの位置にホームがある。現在は延伸する北陸新幹線工事がすぐ近くで行われている。ホームは道路ひとつ隔てて、昭和37年に長野県社会福祉事業団によって設立された知的障害者施設と隣接している。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、知的障害者の共同生活施設がある。法人施設間の交流に加え、地域の方々との交流も盛んに行われている。職員はホームを支えてくれる家族、地域住民の方々に常に感謝の意を表している。ホームは2ユニットで構成されており、ユニット毎入居者に併せた生活の場作りがされている。両ユニットの職員が切磋琢磨しながら、自己満足で終ることのないよう日々サービスの質の向上に心がけていることがひしひしと感じられた。与えられた環境の中で入居者とともに何が出来るかを絶えず考え、実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 介護計画は現在3ヶ月に1回の見直しが行われている。重度化や終末期に向けた方針の共有は法人母体での研修に参加している。役割や楽しみごとについては生活暦の調査などをして支援している。災害対策マニュアルについても掲示に工夫するなど改善がされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 各ユニットごとで自己評価が行われた。初めて経験する職員もいたが、貴重な経験が出来た。定例会で話し合いをし、外部よりの評価ということで改まった感じで受け留めることが出来た。言葉遣いなどについても反省する良い機会となった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されている。多方面よりの委員の参加がある。議題も家族会よりの提案などが幅広くあり、意見を交換している。ホーム側よりの要望の投げかけや緊急災害時の高齢者の非難場所として地域に対してホーム側から出来ることの提案など、さまざまな話し合いの場となっている。地域包括支援センター長より会議の意義を委員の方々に説明をしていただいたことでより理解を深めていただくことに繋がり、運営も運び易くなっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族会や行事への参加、日常的なホームへの来訪等、職員と家族のふれあいの機会は多くあり、その都度要望・苦情を聞かせていただけるように働きかけをしている。家族よりの意見は職員全員に伝え、改善を図っている。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 近隣に一般住宅があるという環境にはないが、地域の方々には協力支援をいただいている。小・中学校の児童生徒との交流やボランティアによる地域の食づくり(やしょうま・笹寿司など)、音楽演奏、読み聞か等、多方面の人々との交流がある。ボランティアに感謝の意を込めて飾られている玄関のシンボルの木には、毎年新しいボランティアの葉が育っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初より地域との交流を盛り込んだ五つの理念が作られている。過去の評価時に「見安いものに・・・」との助言を受け、分かりやすい大きな文字で玄関に掲げられている。事務室、居間にも掲示しており、常に目にすることができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会で話したり、職員に問いかけをしている。異動、新規採用時には、ホームの理念を説明している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周囲に一般住宅があるという環境ではないが、法人が運営する特養と同じ敷地内にあり、地域の小・中学校の運動会等への招待を受け参加している。ホームで行われる夏祭りなどへ地域住民の方々を招待し交流を図っている。ボランティアの参加する行事が日常的に沢山開催されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例会で各ユニットごとに職員の意見を聞きまとめた。過去の外部評価も家族や職員に報告している。また、玄関脇に掲示してある。職員は改めて自己評価に取り組むことで自分の行動を振り返ることができた。言葉づかいなどで気付きを得ることができ、反省する点が多々あったという。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、メンバーは多方面より選出されている。地域包括支援センター長より「なぜ推進会議が必要か」の説明を委員全員にいただいたことで理解が深まった。防災に関するホームよりのお願いや地域での災害時の受け入れ態勢の話し合い等、数多くの議題で話し合いがされており、地域に開かれたホームとして関係強化に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「あんしん相談員」の派遣を受け入れている。日頃の生活での疑問や解決策などの相談に市役所支所・本所問わず出掛け、意見・助言をいただいている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ユニット毎に「しらかば新聞」、「りんどう新聞」が毎月作られ家族のもとに送られている。生活の様子、行事、ホームよりのお願いや、職員の異動などが書かれた新聞は家族に喜ばれている。小遣いの収支の報告は家族の来訪の折に見ていただき、確認印をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱が設置されている。入居者の家族が頻繁に来訪されているので直接職員と話す機会が多く、口頭で要望などを聞いている。担当職員が居室へお茶を運んで家族と話す機会を作っている。要望等が家族よりあった時は全職員に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ法人内に特養、デイサービスがあり、職員の資格・環境等を考えると異動の必要性も出てくるので、各入居者には2名の職員の担当制で対処している。入居者にとって不安を感じさせないように配慮している。新人の職員には1ヶ月間、ベテラン職員が付き添い教育をしている。異動についてはホームの新聞で家族へ報告している。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人母体での内部研修は原則全員参加が義務付けられている。外部研修についてはリーダーが資格などを考慮し、該当者に参加を促している。職員も資格取得に積極的である。職員同士もお互いのレベルアップを図れるように情報の共有化を大切にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「善光寺平ネットワーク」に加入している。連絡会が2ヶ月に1回行われている。施設研修も行われ、お互いのホームの「いいところ」「わるいところ」を気づくことが出来た。今後も職員全員が参加できるように継続していく意向である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みをしていただいた後、リーダーとの顔合わせをし、ホームの雰囲気を見ていただいている。職員が自宅への訪問を重ね、家族より生活暦などの聞き取りも行い、入居に到っている。家族からの話し合いの中では分からないことも職員が目で見ることにより分かることも多い。訪問した職員を担当者として入居時につけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の母親のような感じで、入居者から畑仕事のやり方、漬物の方法などを教えてもらっている。教えてもらった時などは必ず感謝の気持ちを伝えている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳の聞こえない入居者の居室に手話を表示したカレンダーが壁に貼ってある。それを真似て、意思の疎通を図っている。手話の教室に通いケアに役立てていた職員もいた。職員同士で「こんなことをしたらとても喜んでくれた」等、入居者の情報を常に交換し、一人ひとりの思いに答えるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の意見や要望を聞き、介護計画を作成している。定例会で全員への周知を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会でカンファレンスを行い、3ヶ月に1回の見直しを行っている。状態に変化があったときには随時行っている。定例会では入居者の担当職員の意見を聞きながら意見交換をしている。見直し内容については家族への連絡も行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員が病院への付き添いを行っている。家族の方が希望すればホームに宿泊も出来る。敷地内の特養より大型の車を借りてお花見などに外出している。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に沿って対応している。ホーム入居後、家族や入居者の希望で協力医へと変更された方もいる。入居前のかかりつけ医の方もいる。協力医によるほぼ隔週に1回の往診がされている。必要により歯科医の往診もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで数回入居者を看取ったことがある。家族、職員、医師との話し合いのもと、家族の付き添い、医師の協力を得ながら看取りが行われた。看取りについての職員の研修は母体での内部研修で行われている。看取りの段階では毎日の引継ぎ時に職員への細かい指示が与えられている。ホームでの看取り後、家族より職員への感謝の手紙を頂いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会で話し合いをしている。ホームの新聞を地域の方々へ配布する時などは写真掲載などの個人情報に関わる部分については必ず家族の方々に許可を得ている。居室の前にトイレがある方の居室入り口にはプライバシー保護のため職員手作りののれんがかけられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々が思い思いの場所で過ごせるように、居間の一角の畳の和室や廊下の長椅子を設置している。各ユニットの入居者の介護度の違いもあり、ユニット毎でその日その日の計画を立てて過ごしている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ることを職員が見きわめ、食事作りに参加していただいていた。「小さな事でも残っている力を出していただきたい」と職員が言っていたように、共に協力し合いながら準備している姿が見られた。食事もゆっくりと時間をかけ笑顔で食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に入浴日が違う。車椅子の入居者が多いしらかばユニットでは入浴のためのパート職員がおり、入居者の安全と楽しみに配慮がされている。ユニット毎に入浴日が違うので必要に応じて他ユニットの入浴日に入ることも可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や台所の手伝い、畑の手伝い等、出来る範囲で行っている。行動が広がる可能性があるため職員の手助けにより排泄の自立や居室での職員の支援で歩行のリハビリをする等、ゆっくりではあるが張り合いのある生活を引き出すようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけている。訪問調査日にも車椅子の方から歩ける方まで数人ずつに分けて職員が散歩に付き添っていた。毎日の食材の買い出しには交代で入居者が職員と共に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。居室に鍵が付いているがふだんはかけない。入居者によってはかけないと不安な方もおり、その人なりに対応している。ホーム側からかけることは皆無である。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3回防災訓練が行われている。敷地内の特養と合同で地域住民も参加して行っている。職員と共に入居者もスムーズに訓練に参加できている。職員間の連絡網による抜き打ちの伝達訓練も行われている。消防署による救急の訓練にも職員が必ず参加している。消防署への直通の電話が設置されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員により献立が作成され、栄養士が栄養バランスや食材の片よりなどをチェックしている。入居者一人ひとりの水分補給量が書き出されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小学生の絵手紙や入居者の似顔絵が貼られていた。昔からの四季折々の行事に絡んだ飾り物がされていたり、入居者の手芸作品が飾られる等、職員による工夫が随所に見られる。職員の氏名入りの写真が玄関脇に張られていて親近感があった。ホーム全体が床暖房になっていて、寒さは感じられなかった。外部からの訪問者の手洗いの徹底、ホーム内の湿度調整などにも配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのテレビ、箆笥、テーブル、イスなどが持ち込まれていた。好きな演歌歌手の写真が貼られている居室もあった。ポータブルトイレを置いてある居室は外部より見えないように配慮されていた。一人ひとりの緊急連絡先が書かれた張り紙が居室にされていたり、花好きの方の居室の窓には家族のプレゼントの鉢植えが沢山飾られていた。		

※  は、重点項目。